

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
293	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Childhood and current determinants of heavy drinking in early adulthood. 早期成人における多量飲酒に関する、幼児期ならびに現在の決定要因	
執筆者	
Kestila L, Martelin T, Rahkonen O, Joutsenniemi K, Pirkola S, Poikolainen K, Koskinen S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2008 Jul-Aug;43(4):460-9.	
キーワード	
早期成人、多量飲酒、幼児期、決定要因	
要 旨	
<p>目的： 両親の教育、幼年期の生活水準およびいくつかの逆境と、成人早期における多量飲酒との関連を探索し、これら関連要因と反応者の現在の状況に対する効果を解析した。</p> <p>方法： Finland Health 2000 Survey に参加している 18-29 歳の 1234 人の成人標本の解析を行った(2段階クラスター標本で収集された元から代表の 65%、N=1894)。評価指標は純アルコールの g/週によって測定された多量飲酒である(男性.280g/週以上、女性.140g/週以上)。</p> <p>結果： 8%の若年成人男性と 5%の女性は多量飲酒者であった。両性において両親のアルコール問題、他の幼年期における逆境、不十分な教育および失業状態が多量飲酒のリスクを増加させた。多量飲酒による幼年期のインパクトは一部独立しており、一部については成人の特性、特に教育水準によって(両性とも)緩和されていた。</p> <p>結論： 幼年期の逆境は成人早期における多量飲酒に、両性とも関連していた。低い教育レベルや失業とともに幼年期の社会環境は、個人および集団レベルにおける過度のアルコール摂取によって引き起こされた害に取り組むために、計画の予防政策で考慮に入れられるべきである。</p>	